

2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	10	ご家族の訪問時や電話対応時、入居者様の状態を報告できる職員が限られている。その為、ご家族には職員に対する遠慮があり、意見・要望を聞き出すことが出来ていない。	ご家族に、職員の顔と名前を憶えて頂くことで親しみを持って頂く。 また、入居者様の日々の状態を細かく報告することで、職員に対して信頼と安心感を持って頂く。	職員には、ご家族対応の研修を行なうなどして、正しい言葉づかいや対応を知ることで、少しずつご家族対応出来る職員を増やす。 通信を作成し2,3か月に一度発行し、施設での入居者様の生活を知って頂く。	6 か月
2	11	職員からの運営に対する意見や提案を話し合う機会がない為、職員全員で施設の質の向上を目指していこうという意識が低い。	管理者と職員との間で意見等を言いやすい関係を作る。 また、こちらの思いを知ってもらうことで、職員の意識向上を目指す。	管理者が職員一人ひとりと面談を行なうことで、個人の思いや意見を管理者が知り、管理者の思いも職員に知ってもらう。 ミーティングを行った際は発言しやすい雰囲気作りを心がけ、又、個人が意見を言う場を設ける。	6 か月
3	31	職員の情報の共有や気付きが甘く、看護師との連携が取れていない為、医療面で不安がある。	職員全員が入居者様の命を預かっているという事に関して再度自覚を持ち、チームケアの重要性をより認識する。	研修を行い、緊急時の対応や医療面の知識を職員に知ってもらうことで、よりいろいろな面で気付くことの出来る職員育成を行なう。 連絡ノートや毎日の記録の記入方法を見直し、職員全員が入居者様の状態を知る事の出来る環境を整える。	6 か月
4	33	重度化や終末期の具体的な対応指針や同意書の書式が整っていない。	具体的な対応指針や同意書の書式を作成することで、きちんとした対応を明確にして、入居者様がもし重度化した際にご家族との相談・連携を図る環境を整える。	具体的な対応指針の作成と、同意書の作成を行なう。 ご家族に質問をされた際に曖昧な返答にならないよう、重度化についてきちんとした説明のできる職員を育成する。	6 か月
5	49	外出の機会を少しでも増やせるよう、敷地内の「東屋」に散歩に行く機会を作っているが、外に行く機会がご自分で動ける入居者様に偏ることが多く、車イスや寝たきりの方が外に出る機会が少ない。	ご自分で動ける方だけではなく、介助を必要としたりご自分の意思を伝えられない方も、もっと戸外に出られる環境を整える。	1、2ヶ月に一度程度、行事として外出する機会を作る。(その際、介助の必要な方も外出できる様、職員の人数の確保をしっかりと行なう) 日々の生活の中で、職員同士もっと連携を取ること、いろいろな方が外を散歩する機会を作る。	6 か月

注1) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。

注2) 項目数やセルの幅が足りない場合は、行を挿入してください。